



かわの情報誌



特集

和歌山県

ご存じですか？昔の水洗便所 ～高野山を訪ねて～

京都市

高瀬川再生プロジェクトについて

福井県

台風18号による一級河川野木川の被害と対応について

2014 春号  
NO. 85

# かわの情報誌 “さらさ” 第85号

ページ

## 特集

- 3 **ご存じですか？昔の水洗便所 ～高野山を訪ねて～** … (A)  
和歌山県 県土整備部 河川課 井ノ本 浩正
- 4 **高瀬川再生プロジェクトについて** … (B)  
京都市 建設局 水と緑環境部 河川整備課 森 英祐
- 5 **台風18号による一級河川野木川の被害と対応について**… (C)  
福井県 土木部 河川課 印牧 史人

## トピックス

- 6 **大和川が過去最高の水質を達成。「水も心もぴっかぴっかの大和川」  
～優秀作品表彰式を開催。  
～大和川「絵・ポスター・作文・写真」コンクール2013表彰式～**  
近畿地方整備局 大和川河川事務所 河川環境課 井上 貴嗣
- 8 **『西紀ダム』、『与布土ダム』湛水開始！**… (D)  
兵庫<sup>にしき</sup>県 県土整備部 河川整備課 三好 達士
- 10 **「今後の堤防管理に関する技術検討会」を開催しました**  
滋賀<sup>よふど</sup>県 土木交通部 流域政策局 流域治水政策室 企画・計画チーム 江平 智昭
- 12 **平成25年度近畿河川技術研修の開催報告**  
近畿地方整備局 河川部 地域河川課 松岡 一成
- 15 **特定都市河川の実務担当者会議を大阪で開催**  
近畿地方整備局 河川部 地域河川課 西村 信彦

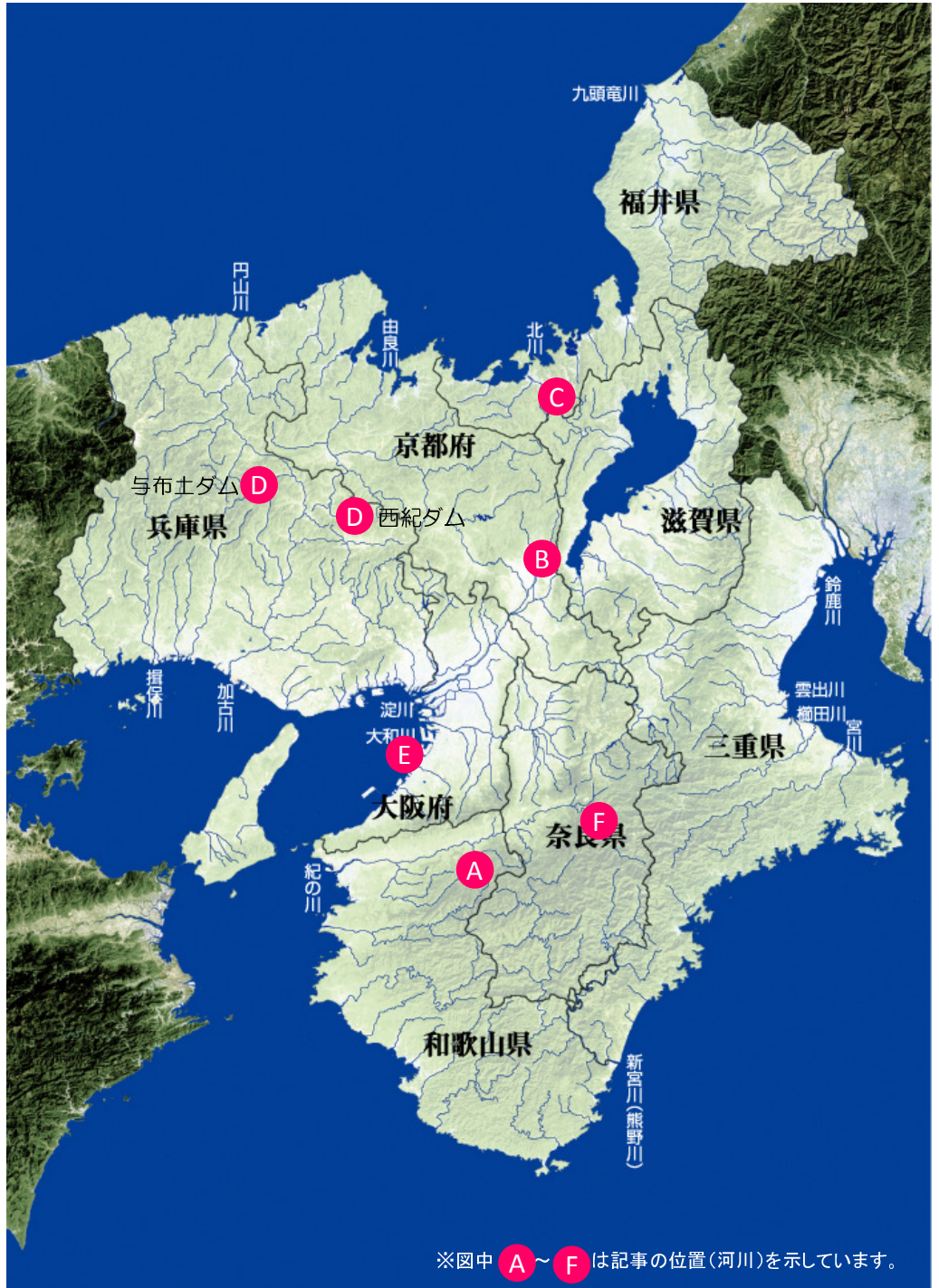
## INFORMATION

- 17 **平成25年度の災害対策等緊急事業推進費について**  
近畿地方整備局 河川部 地域河川課 中村 大輔
- 19 **大阪湾再生に向けた取り組みについて～多様な主体との連携・協働～**… (E)  
近畿地方整備局 企画部 広域計画課 黒川 文宏
- 21 **多自然川づくりアドバイザー制度について**  
近畿地方整備局 河川部 地域河川課 辻田 英幸
- 22 **“おらがまち”の水辺自慢**  
近畿地方整備局 河川部 地域河川課 今須 重明
- 23 **大滝ダム ～完成したダム・始まった伝わるダム広報～**… (F)  
近畿地方整備局 紀の川ダム統合管理事務所管理課 長坂 健
- 25 **イベント情報**

# 表紙写真



佐保川（奈良県奈良市大安寺西）  
 平成26年3月2日（日）、大阪府・奈良県内の大和川流域において、流域住民の方々の参加による「大和川一斉清掃」を実施しました。写真の大安寺西地区では、昭和62年から住民で美しい川に戻そうと河川清掃を開始し、今年で28年目になります。  
 奈良県内では、下の写真のように他の箇所でも清掃が行われ、過去最高となる約8,400人（昨年度約7,200人）の方々に参加いただき、約47tのゴミが回収されました。ご協力ありがとうございました。



大和川（奈良県王寺町）



飛鳥川（奈良県田原本町）

# ご存じですか？昔の水洗便所 ～高野山を訪ねて～

和歌山県 県土整備部 河川課 井ノ本 浩正

はじめに

和歌山県では、今年から「紀伊山地の霊場と参詣道」の世界遺産登録 10 周年、高野山開創 1200 年、紀の国和歌山国体とイベントが続きます。みなさんには、ぜひ和歌山県へお越しいただき、記念となるイベントを楽しんでいただきたいと思います。

今回は、開創 1200 年を迎えようとしている高野山を訪ねてきました。

## いざ高野山へ

かつらぎ町笠田から国道 480 号を車で走り、「山頂に着いた」と思ったら、まず左に見えるのが、大門。

高野山開創当時は、鳥居だったそうですが、江戸時代から現在の建物となったと言われています。

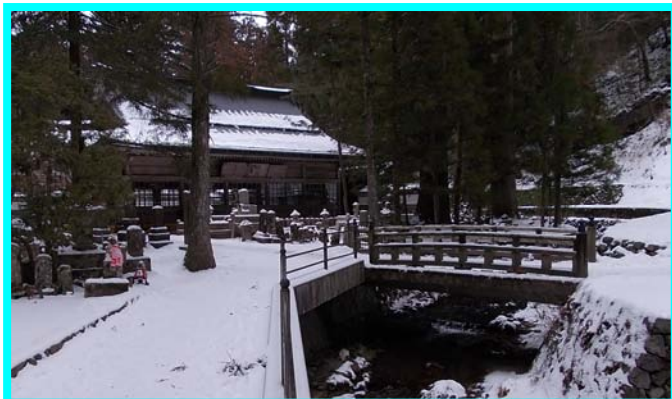


大門

高野山内に入り、金剛峯寺を左に見ながら、奥之院へ到着。奥之院には、弘法大師ごぼう御廟があり、大師信仰の中心聖地となっています。奥之院周辺には、御殿川、玉川たまが流れています。

私が、今回、高野山を訪れたのは、これらの川を皆さんに紹介したかったからです。

写真でご覧いただいているとおり、一見何の変哲もない



たま 玉川 (冬の高野山・奥之院)

河川ですが、ものすごい歴史があるのです。

## 薬研やげん式便所

実は、弘法大師・空海が、真言宗の修行や学問を学ぶ道場とした高野山で、水洗便所として使っていたというのです（下図参照）。

高野山は、信仰の対象であり、汚物をもって汚すことがはばかられたこと、また山奥の割には水量が豊富だったことから、その流れをうまく使って糞尿の排せつ処理が進められたと考えられています。



平安時代から水洗便所の先駆けとも言えるようなし尿処理を行っていたとすると、当時の和歌山県は、下水道事業の先端を走っていたのだなあ、と誇らしく思いました。

※ 薬研やげんとは・・・漢方薬などをつくるとき、薬種を細粉にひくのに用いる器具



## おわりに

高僧、学問僧、修行僧が、山頂の厳しい環境のなか、日々修行していたことに思いを馳せて一度訪れられたらいかがでしょうか？

宿坊寺院もたくさんあり、精進料理も体験できます。

# 高瀬川再生プロジェクトについて

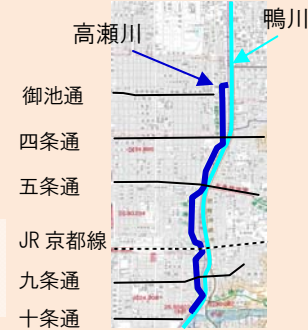
京都市建設局水と緑環境部河川整備課 森英祐

## 1. 高瀬川の歴史

高瀬川は、角倉了以(すみのくらりょうい：1554～1614)とその子、素庵(そあん：1571～1632)により、慶長16年(1611年)に開削工事を着工し、慶長19年(1614年)に完成された運河で400年の歴史があります。高瀬川という名前は、輸送に高瀬舟と呼ばれる平底の舟が用いられたことから付けられた名で、別名角倉川と呼ばれています。それまで、大坂方面からの物資は、淀川を舟で運ばれ鳥羽で陸あげし、陸路で京都市へ運ばれていたが、高瀬川の完成によって舟で市内中心部へ運ぶことができるようになり便利になりました。



明治期の高瀬川の様子  
出典：田中緑紅「高瀬川 上」  
(緑紅叢書 第三年第三輯)



高瀬川絵図(二条通～四条通) 資料提供：京都市歴史資料館

## 2. 高瀬川の風情を後世に残すために

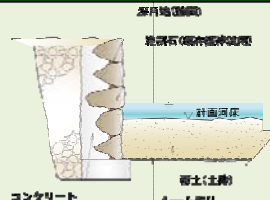
現在の高瀬川は、繁華街の貴重な水辺空間として、京都の代表的な景観を形成しています。しかし、護岸の損傷、老朽化に伴う漏水によって水がれが発生し、良好な水辺空間を保つことが困難な状況になっています。そこで、高瀬川再生プロジェクトを立ち上げ、抜本的な修復を行い、水量を確保するとともに、魅力ある水辺づくりを目指しています。



四季を通じて、豊かな流れを保ち、石垣と川べりの木々が美しい水辺を再生します。

## 3. 高瀬川再生プロジェクト

### 高瀬川の整備



護岸(石垣)は、当時の風情を残すため、表面にコンクリートが見えない深目地で仕上げました。深目地とは、石と石の間に植生を回復させ、生物の棲家になる「生物多様性」に配慮した構造です。



施工前



施工後

### 地域と共生できるマンション計画

高瀬川の景観と石垣を守るために、事業者、地元の高瀬川保勝会、京都市の三者が協定を締結し、マンション建設がされました。



### 高瀬川フォーラム



まちづくりと一体となった整備に向け、高瀬川に係る市民、企業、行政がお互いの立場を大切にしながら意見を交わしました。



一之船入を活かすために地元企業による、歴史に基づく回遊式一之船入計画一之船入に人が近づくことが出来るようなプランが提案されました。

### 観光資源として



角倉了以別邸跡



史跡 高瀬川一之船入



象山先生遭難之碑



二之船入跡

高瀬川周辺にはたくさんの石碑があります。

### 地域と一緒に守り育てる



高瀬川沿川のサクラの更新や道路補修も連携して行い、周辺一帯を地域のみなさまと一緒に守り育てています。

## 4. おわりに

今回は、高瀬川を紹介しましたが、京都市では、堀川等、「まちに開かれた水辺、水辺に開かれたまち」を目指し、整備している河川があります。京都市にお越しの際は、ぜひ「水辺」にもお越しください。

# 台風 18 号による一級河川野木川の被害と対応について

福井県 土木部 河川課 印牧 史人

## 1. はじめに

平成 25 年 9 月 15 日から 16 日にかけて、福井県では嶺南地方を中心に台風 18 号による記録的な集中豪雨に見舞われ、16 日早朝には滋賀県、京都府とともに全国で初となる大雨特別警報が発表されました。

今回の大雨により、野木川流域では 1 時間雨量 38.5 mm、24 時間雨量 384.0 mm の降雨があり、破堤により 110ha が浸水し、床上 3 戸、床下 3 戸、事業所 3 棟、孤立家屋が 79 戸と被害が広範囲に及びました。(平成 25 年 11 月 2 日現在)

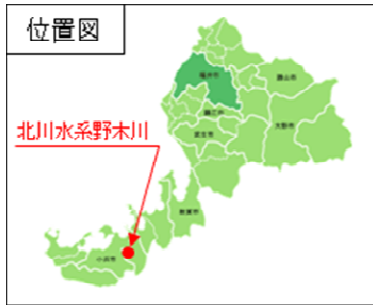


図-1 位置図



写真-1 破堤状況（野木川）

## 2. 復旧に向けて

野木川では、破堤した 16 日夕方より応急復旧工事に着手し、緊急的に破堤部の盛土工事を実施しました。また、台風 18 号災害に伴う公共土木施設の災害査定が 11 月 25 日より 3 週間に渡って実施され、野木川においては、破堤部を含む越水区間全体について、「越水させない原形復旧」による堤防嵩上げ及び護岸工が採択されました。また災害復旧事業区間よりも下流の区間においても、災害対策等緊急事業推進費による堤防嵩上げ及び護岸工を実施することになりました。

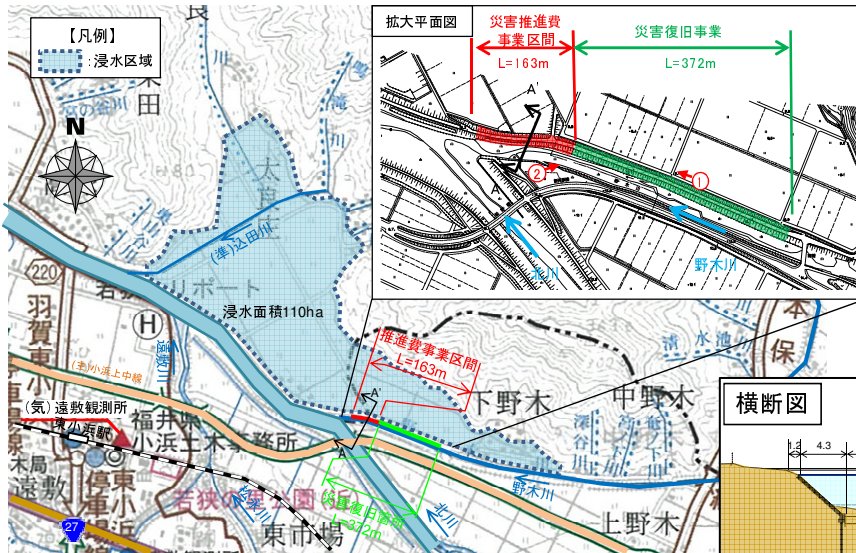


図-2 平面図・横断面図



写真-2 応急復旧状況（野木川）

## 3. おわりに

今回の豪雨災害では、国土交通省をはじめ、関係機関の皆様からご支援をいただき、深く感謝いたします。1 日も早い復旧に向け、今後も関係機関と連携しながら、地域の安全・安心が確保できるように取り組んでまいります。

# 大和川が過去最高の水質を達成。「水も心もびっかびかの大和川」～優秀作品表彰式を開催。 ～大和川「絵・ポスター・作文・写真」コンクール 2013 表彰式～

近畿地方整備局 大和川河川事務所 河川環境課 井上 貴嗣



2013 年度受賞者

## 29 回目を迎えた大和川コンクール

大和川「絵・ポスター・作文・写真」コンクールの表彰式が 2013 年 12 月 15 日(日)、奈良県の「王寺町地域交流センター」で開催されました。当コンクールは、昭和 40 年代の高度経済成長とともに水質が急激に悪化し劣悪な状況となった大和川を、かつてのように子どもたちが泳ぎ遊ぶことができる美しい大和川に取り戻すことを目的に、「大和川クリーンキャンペーン」活動のひとつとして昭和 60 年(1985 年)に始まり、今回で 29 回目を迎え、第 1 回からの応募作品の累計は 10 万点を超えております。

## 今年のテーマは「水も心もびっかびかの大和川」

流域の皆さんの努力により、水質は 5 年連続で環基準を達成し、アユも戻ってきて 7 年と、大和川は確実にキレイになっています。これからも、さらに大和川がキレイになることへの期待を込め、今年は「水も心もびっかびかの大和川」をテーマにし、作品を募集しました。

今回は 2,943 点の応募があり、その中から優秀作品 50 点と学校 2 校が選ばれました。

表彰式では、会場に入賞作品と併せて一次審査を通過した 217 作品も展示され、受賞者だけでなく一次審査を通過した子どもたちも多数訪れ、アットホームな雰囲気ながら粛々とした表彰式を開催することができました。

## 表彰式は流域市町村も授与者として登場

表彰式は、「奈良県知事賞」から始まり「大阪府知事賞」、「近畿地方整備局長賞」「クリーンキャンペーン審査委員長賞」、「大和川水環境協議会賞」、「大和川河川事務所長賞」と、コンクールを環境学習として活用され、多数の作品を応募してくれた学校へ送られる「地域環境教育奨励賞」を合わせた 7 部門の表彰が行われました。

当コンクールの特徴は大和川流域全体から広く応募があることです。そのため、大阪府・奈良県はもちろん、大和川水環境協議会も後援となっており、「大和川水環境協議会賞」を設け、毎年受賞者の在住地域の市町村から賞状を渡して頂くなど、地域と連携した表彰式を行っています。

### 【奈良県知事賞】の賞状授与ようす



【大和川水環境協議会賞】の賞状授与のようす  
今年は大阪市、香芝市、大和郡山市から表彰

そして授与後、賞毎に受賞者の喜びの声を大和川博士がインタビュー。子どもたちの作品に込められた願いや思いに、大人たちも驚き、また関心したシーンとなりました。



受賞者インタビュー

最後に、参加された受賞者のみなさんと記念撮影(冒頭写真)。式典後も、会場では受賞者を囲んでそれぞれが作品の前で写真を撮っておられ、ご家族の笑顔がいつまでも絶えない楽しい会場でした。



入賞作品の前で記念撮影



一次通過作品展のようす

### 水質改善を後押しする「コンクールの力」

いつの時代も子どもたちの作品には大和川のありのままの姿が表現され、かつての作品の多くは汚い大和川の姿を描いたものでした。

しかし近年の様々な取り組みにより、天然のアクアが確認されるなど大和川の水環境も着実に改善してきたことにより、作品も四季折々の自然豊



【奈良県知事賞】



【大阪府知事賞】



【近畿地方整備局長賞】



【大和川水環境協議会賞】



【クリーンキャンペーン  
審査委員長賞】

かな大和川や楽しく水遊びをする作品などが多く見られるようになり、子どもたちにとって大和川のイメージがずいぶん変わってきたことがわかります。

平成25年の大和川の水質結果の速報値は、BOD75%値は2.7mg/L、BOD年平均値は2.5mg/Lとなり、観測史上最もきれいな水質を記録しました。

この結果を支えているものの一つが、「大和川クリーンキャンペーン」ではないでしょうか。

当コンクールの応募作品は昨年10万点を超え、その記念として過去20回以上応募頂いた学校を表彰させて頂きましたが、なんと13校もありそのうち5校が連続27回の応募でした。

このようにコンクールを支えてくれる学校、地域があることが、「継続は力なり」といいますが、地域に根差した取り組みとなり、今日の水環境の改善を物語っているのではないかと思います。

来期はコンクールも30周年を迎えます。今後も「子どもたちがいきいきと水しぶきをあげて遊べる大和川」を目指して更なる水環境の改善に取り組んでいきたいと思ひます。



# 『西紀ダム』、『与布土ダム』 湛水開始！

兵庫県 県土整備部 河川整備課 三好 達士

## 1. 試験湛水について

兵庫県が建設中の西紀ダム、与布土ダムにおいて、ダム本体工事が完成し、試験湛水を開始しました。試験湛水とは、ダム貯水地を満水状態にして、ダム堤体及び貯水池の安全性を確認するもので、安全性の確認後、供用開始となります。

両ダムの湛水式と2月10日時点の湛水状況についてご紹介します。

## 2. 西紀ダム湛水式挙行

西紀ダムにおいて、平成25年11月30日に湛水式を執り行い、試験湛水を開始しました。

湛水式では、梅谷順子兵庫県丹波県民局長や酒井隆明篠山市長、辻重五郎丹波市長らによりゲート閉塞ボタンが押されると、仮排水ゲートが降ろされ、堤内仮排水路を閉塞しました。

その後、くす玉開披が行われ、万歳三唱で試験湛水を祝いました。

西紀ダムは、平成27年春に供用できる見通しです。

### 【西紀ダム】

- ・事業箇所 兵庫県篠山市栗柄
- ・事業期間 平成6年度～平成25年度（予定）
- ・ダムの諸元
  - 形 式：重力式コンクリートダム
  - 洪水調節方式：自然調節方式
  - 堤 高： 26.7m
  - 堤 頂 長：172.0m
  - 総貯水容量： 38万m<sup>3</sup>
  - 有効貯水容量： 36万m<sup>3</sup>
- ・総事業費 約54億円



くす玉開披

### 湛水状況



平成25年12月9日



平成26年2月10日

### 3. 与布土ダム湛水式挙行

与布土ダムにおいて、平成26年1月9日に湛水式を執り行い、試験湛水を開始しました。

湛水式では、岩根正兵庫県但馬県民局長や多次勝昭朝来市長らによりゲート閉塞ボタンが押されると、仮排水ゲートが降ろされ、堤内仮排水路を閉塞しました。

その後、試験湛水の無事終了を願い、万歳三唱で試験湛水を祝いました。

付替道路の一部工事を施工中であるため事業の完了は27年度となりますが、与布土ダム本体は、平成26年6月にも供用できる見通しです。

#### 【与布土ダム】

- ・事業箇所 兵庫県朝来市山東町与布土
- ・事業期間 平成3年度～平成27年度（予定）

#### ・ダムの諸元

形 式：重力式コンクリートダム

洪水調節方式：自然調節方式

堤 高： 54.4m

堤 頂 長：145.0m

総貯水容量：108万 $m^3$

有効貯水容量：92万 $m^3$

- ・総事業費 約140億円



ゲート閉塞

#### 湛水状況



平成26年1月8日



平成26年2月10日

### 4. 試験湛水状況

2月10日時点で、西紀ダム・与布土ダムとも、ダム堤体の漏水量に問題はなく、堤体および貯水池周辺にも変状は見られず、安全を確認しています。また、降雪が多いこともあり、計画を上回る早さで湛水が進んでいます。

兵庫県では、供用開始に向け、引き続き試験湛水を行い堤体や貯水池周辺の安全確認を進めてまいります。

# 「今後の堤防管理に関する技術検討会」を開催しました

滋賀県土木交通部流域政策局流域治水政策室企画・計画チーム 江平 智昭

(はじめに)

平成25年9月15日から16日にかけて接近した台風18号により、滋賀県では、総雨量400mmを超える記録的な大雨となりました。

本県では300件を超える公共土木施設が被災し、現在、近畿地方整備局や近畿各府県のご支援をいただきながら、早期復旧に向け災害復旧事業等を進めております。(図1)

この台風により、一級河川鴨川(高島市域)および一級河川金勝川(栗東市域)の天井川区間において堤防決壊、堤内地へ浸水が広がり、甚大な被害が発生しました。(図2)また、一級河川安曇川などの築堤河川にて堤防裏法面の崩落等が発生し、堤防決壊への前兆現象が起きました。

本県では、決壊した鴨川や金勝川のような天井川や築堤河川を多く管理していることから、この災害原因を検討し、今後の堤防管理や再度災害防止について考えるための「今後の堤防管理に関する技術検討会(以下「技術検討会」という)」を設置しました。

平成26年1月23日に行った、第1回の技術検討会の結果については次のとおりです。

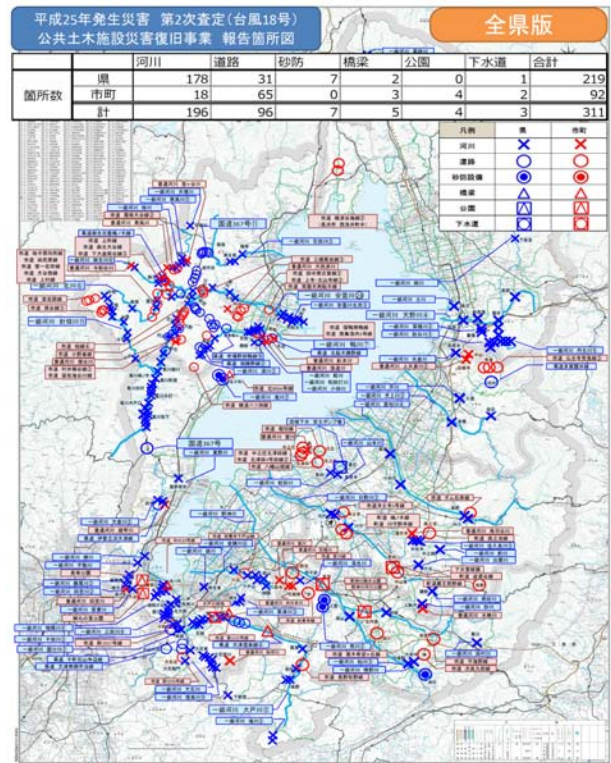


図1 滋賀県公共土木施設被災状況



図2 決壊河川の被害状況(左:鴨川、右:金勝川)

(第1回技術検討会の説明内容)

この技術検討会では、京都大学防災研究所の中川教授を座長に、同じく京都大学の立川教授、国土技術政策総合研究所河川研究部の服部室長、独立行政法人土木研究所土質・振動チームの佐々木上席研究員を委員とし、技術的意見を求める場としております。

第1回の技術検討会では、「台風18号の降雨や被害特性」(表1, 2)として、短時間降雨より12時間や24時間継続降雨が高い確率評価を示す雨であったことや、河川の高水位状態が継続したことと被災数との整理について説明しました。また、決壊した鴨川、金勝川の被災状況や被災前の状況、「被災に至ったプロセスや決壊メカニズムの仮説」(表3, 4)について、県事務局より説明したのち、検討会の委員よりご意見等をいただきました。

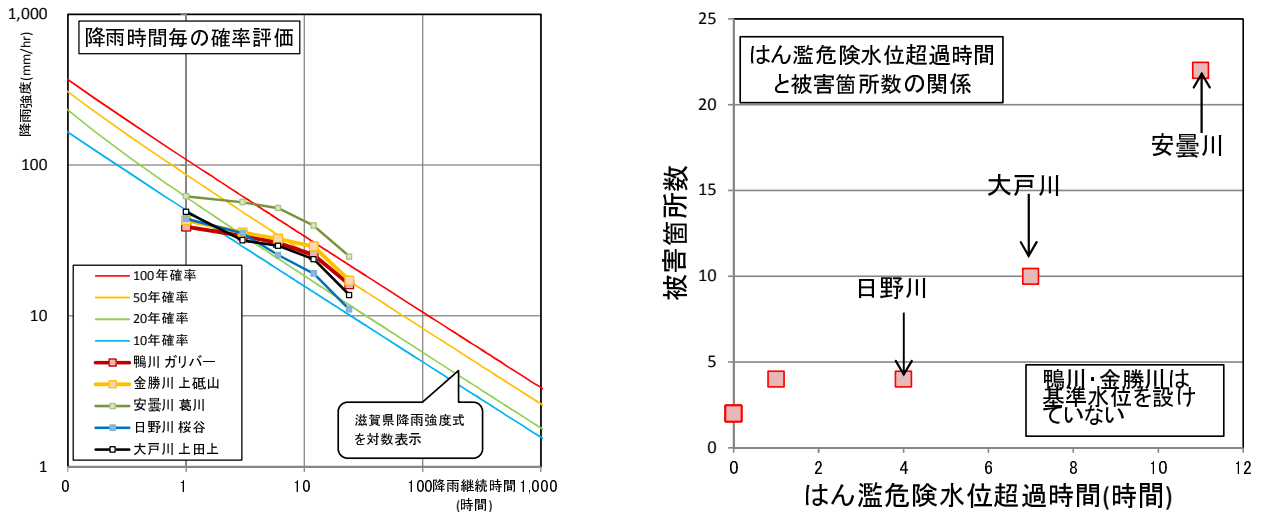


表1, 2 台風18号の降雨特性(左)・被害特性(右)

### (委員からの主だった意見)

事務局からの説明に対して各委員からは、今後の堤防管理を考える上で「被災に影響を及ぼした要素として、高水位継続時間、流速、水位のいずれが支配的であるかの検証は貴重なデータとなる」といった意見や、被災時のデータ収集や情報提供として、防災カメラの有効性などのご意見をいただきました。

また、決壊した鴨川、金勝川については「被災前(河川施設や河床)の状況がどうであったか」「被災時の詳細な状況、聞き取り調査なども必要」

「決壊した箇所としていない箇所の違いを整理することも必要」など多数のご意見をいただきました。

### (次回の技術検討会に向けて)

今回の技術検討会では「降雨や被害特性」「決壊河川の概要や決壊メカニズム」の説明に対して、様々な観点から意見等いただきました。次回の技術検討会では、委員意見への回答や堤防崩落した河川の説明を行い、更なる原因の検討を進めていきたいと考えています。それら原因等を踏まえ、再度災害の防止に向けた、堤防管理のあり方につなげていきたいと考えております。

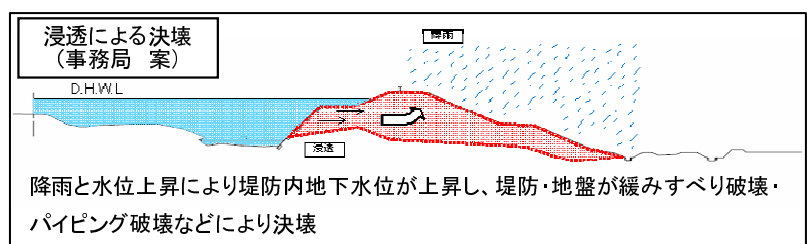


表3 鴨川の決壊メカニズム仮説 イメージ(浸透破壊)

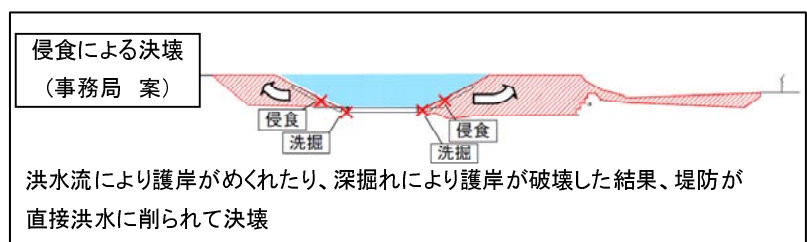


表4 金勝川の決壊メカニズム仮説 イメージ(浸食破壊)

# 平成 25 年度近畿河川技術研修の開催報告

近畿地方整備局 河川部 地域河川課 松岡 一成

## 1. はじめに

平成 25 年度近畿河川技術研修が平成 26 年 1 月 29 日（水）、30 日（木）の 2 日間にわたり、大阪合同庁舎第 1 号館において開催されました。平成 17 年度から開催し、9 回目となる今回は、河川行政に関わる国、



府県、市町の実務担当者 38 名が研修生として参加し、一般聴講 164 名を集め、実施されました。

本年度は、「経験のないような気象現象にどのように対応してくのか」をテーマに講師による講義、各自治体担当者による事例発表や研修生による分科会討議、パネルディスカッションが行われました。

参加した研修生からは総じて高評価であった他、聴講生からも次回も参加を希望する声が多く寄せられました。

## 2. 研修内容について

初日は先ず、熊原義正大阪管区気象台気象防災部気象防災情報調整官により第一講義として「気象災害から命を守る防災情報」、その後、岡田憲夫関西学院大学災害復興制度研究所長より第二講義として「減災のためのリスクコミュニケーションとまちづくり」と題して講義して頂きました。

熊原気象防災情報調整官からは、集中豪雨が各地で発生している現状を紹介して頂いた後、「普段から大雨に備え土砂災害危険箇所を知っておく必要がある」ことや、「防災情報を効果的に活用し、状況に応じた避難行動で身を守ること」、「警報が発令されないからといって安心は禁物」等のお話を頂きました。



熊原 義正 氏

岡田所長からは、先ず「21 世紀に入り大災害リスクの時代の様相を呈している」ことについて言及され、



岡田 憲夫 氏

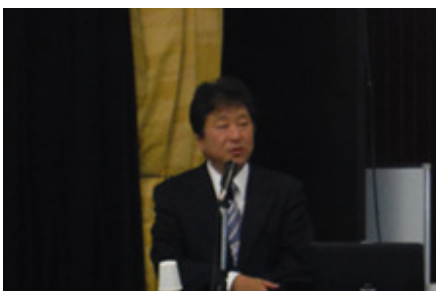
「災害は、まさか、そこまでのことはとの気の緩みを突いてくる」「正常バイアスが働き異常事態を認めることがなかなかできない」「日頃から地域参加型で安全・安心を診断する仕組みがない」「河川が溢れそうでも人々は普通の生活をしている」「きわどいところで自然は手を引いてくれたから大災害にまで至らない例が多い」「埋没している整備の有り難さの評価や減災を目指したまちづくりが重要」「釜石の奇跡は奇跡ではなく、日頃からの訓練の賜である」等のお話を頂きました。

そして午後からは、各自治体から昨年の台風 18 号の被災状況や課題、対応と取り組み等について事例発表が行われました。

福井県小浜市からは「台風 18 号の災害対応における市民との協働について」、滋賀県土木交通部からは「台風 18 号による県内の被災状況について」、京都府建設交通部からは「台風 18 号豪雨の特徴と府内河川の状況について」、近畿地方整備局福知山河川国道事務所からは「由良川における台風 18 号の災害対応について」、大阪府都市整備部からは「大阪府における河川災害事例と対応」、兵庫県多可町からは「平成 25 年 9 月 2 日豪雨による多田川流域の被災概要と今後の治水対策に向けて」、奈良県県土マネジメント部からは「水防情報システム強化の取り組みについて」、和歌山県県土整備部からは「排水ポンプ車の活用について」と題して、それぞれ各担当者から、研修テーマの参考となるような事例発表がありました。

これらの発表事例に対して、アドバイザーの池淵周一、井上和也、両京都大学名誉教授に講義を頂いた岡田所長にも加わって頂き、必要な助言や今後の留意点等についてアドバイスを頂きました。

2 日目の 30 日は、午前中 4 つの分科会に分かれ、それぞれのテーマについて議論し、とりまとめを行いました。テーマは 2 テーマ「①河川氾濫のような大水害時に的確な避難情報等を発するのための河川管理者からの情報等とは」と「②局地的な集中豪雨に対する治水対策のあり方」について議論されました。



**堀 智晴 氏**

午後からの特別講義では、堀智晴京都大学防災研究所教授に「ソフト

とハードの連携で洪水に備えるために「水害時の避難行動シミュレーションとその展開」と題して講義して頂きました。講義では、「治水への努力は国土の安全性を大きく高めたが、しかし洪水を河道内に閉じ込めるには限界がある」「水害避難行動シミュレーションモデルの紹介と、これを活用したリスク軽減で、街全体で水害に備える」

というお話があり、こうしたモデルは、発災時に起こりうる事態に対する想像力を養うためにも有効との講義を頂きました。

その後、午前中の分科会での議論された内容の発表が、アドバイザーの池淵、井上両京都大学名誉教授、特別講義の堀智晴教授、それに会場の参加者も加わって、パネルディスカッションにより実施されました。

まず、第一分科会、第二分科会の代表からテーマ①についてそれぞれ発表がありました。第一分科会からは、「住民からすると情報が



**事例発表**



**分科会での意見交換**



**パネルディスカッション**

多すぎて判断しきれないのではないか」「必要な情報を引き出せていない」「防災無線の活用や民放からの情報発信が有効」、第二分科会からは、「避難情報が発令されても避難する人が少ない」「防災意識の向上や住民目線の情報になっていない」「防災教育、予測等の精度の高い情報提供が必要」との発表がされました。会場からは「過去の水害を地元知らせる」「自治会を活用してはどうか」等の意見がありました。

アドバイザーからは、「データ放送で過去の最高水位とあるが、いつの水位かわからない」「住民にみてもらい改善点を抽出すればよい」「インターネットはサーバーダウンやデータ集中によるデータスピードの遅延が問題」「発災前後での水位予測精度の向上が課題。時間帯により垂直避難も有効」「公共放送に定期的に情報を流してもらう工夫が必要」「空襲警報ではないが、緊迫感も必要ではないか」といったアドバイスがありました。

次に第三分科会、第四分科会の各代表からテーマ②について発表があり、第三分科会からは、「貯留施設が有効」「民間協力や地元住民へのPRが重要」、第四分科会からは「住民にリスクを伝える」「地域とのコミュニケーションや防災教育」「道路との連携」について発表がありました。会場からは「民間協力は民間にインセンティブ付与が重要である」との意見が寄せられました。

アドバイザーからは、「施設対応は考えていかないとけない」「河川と下水道の連携が必要」「既存ダム等の徹底した活用」や「集中豪雨は降雨予測、流出予測、氾濫予測技術の向上が重要」「地下街、災害弱者への対応が重要」「土地の成り立ちや地形（窪地）を知っておくことが重要」「災害の歴史を住民に知ってもらうこと」「ゲーム感覚でできる避難シミュレーターのようなものがあるとトレーニングになるのではないか」といったアドバイスがありました。



分科会報告



会場からの質問

### 3. 研修を終えて

本研修を実施するにあたっては、昨年の9月に近畿地方整備局と近畿各府県で実行委員会を組織、テーマや運営方針について議論したうえで、内容の充実を図ってきました。また、今回の研修では政令市にも声かけ参加して頂きました。

研修内容については、参加者のアンケート結果の分析を待つこととなりますが、今回の研修で「評価される」とされたところは更に評価されるように、また「評価出来ない」とされたところは、改善を図るようにして、次年度以降も引き続き本研修が充実した内容で実施できるようにしたいと考えています。

最後に、講義を頂いた講師の先生、貴重な助言を頂いたアドバイザーの先生、研修を盛り上げて頂いた会場の参加者、本研修を共催して頂いた各種団体に対して感謝するとともに、引き続き本研修に対するご理解を賜りますようによりしくお願い致しまして、河川技術研修の報告とさせていただきます。

# 特定都市河川の実務担当者会議を大阪で開催

近畿地方整備局 河川部 地域河川課 西村 信彦

## 1. はじめに

「特定都市河川浸水被害対策法」は、都市部（市街化率がおおむね5割以上）を流れる河川の流域において、著しい浸水被害（過去の実績又は想定される年平均水害被害額が10億円以上）があり、かつ、河道等の整備による浸水被害の防止が市街化の進展により困難な地域について、特定都市河川及び特定都市河川流域を指定し、浸水被害の防止のための対策の推進を図るもので、平成16年5月に施行されました。

近畿では寝屋川及びその支川、流域が唯一指定されていますが、指定された河川の管理者や流域の市町村等は「流域水害対策計画」を共同で策定する役目を担い、安全性を高める浸水被害対策を実施することになり、「流域水害対策計画」に基づき、河川管理者がその流域に雨水貯留浸透施設を整備することも出来るようになります。

また、流域の住民や事業者は雨水を貯留浸透させる努力を担い、宅地等以外の土地で行う一定規模（1,000m<sup>2</sup>）以上の雨水浸透阻害行為を行う場合は、知事や市長の許可が必要となります。

こうした行政行為に対して、平成26年2月7日（金）、全国の都府縣市と国土交通省（近畿からは大阪府、大阪市、整備局が出席）の実務担当者41名が、大阪府西大阪治水事務所の会議室をお借りして、日頃の苦勞や悩みについて意見交換を行いました。

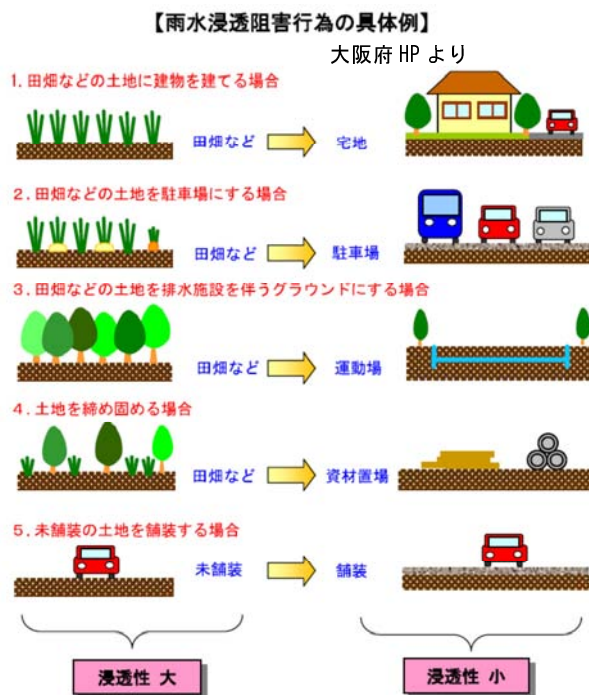
## 2. 会議について

会議では、先ず国交本省から特定都市河川浸水被害対策法進捗状況や下水道浸水被



害軽減総合事業の拡充、雨水貯留浸透施設に係る税制上の特例措置についての説明がありました。

引き続き、各都府縣市から、全国の特定都市河川及びその流域における取り組みについての紹介後、阻害行為許可後の事業譲渡や流域貯留浸透施設の維持管理、雨水浸透阻害行為の区域の考え方、許可済み案件や指導のためのパトロール等の実施について、実態報告や課題等について意見交換を行いました。





### 3. 現地視察

全国の実務担当者が一同に会した折角の機会でしたので、会議後は寝屋川流域を中心に現地視察を行いました。

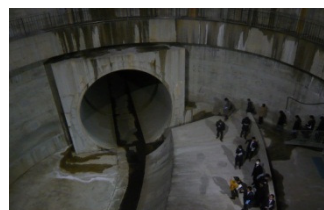


津波・高潮ステーション

まず、大阪府西大阪治水事務所に隣接する大阪府の津波・高潮ステーションを視察し、津波や高潮災害から生命を守る知恵を得るとともに、啓発方法について住民目線で学びました。特に、津波災害体感シアターでは、前面、左右側面、床面の4面が一つながりに映し出されるダイナミックな映像シアターにより、津波にのみ込まれる擬似体験ができ、その恐ろしさを体感しました。

次に、寝屋川の洪水と大阪平野の高潮対策のための毛馬排水機場を視察しました。寝屋川洪水時には、大阪市内河川への洪水量を軽減させるために最大200m<sup>3</sup>/sを、また高潮により安治川、尻無川、木津川の三大水門が閉鎖された時には最大330m<sup>3</sup>/sを淀川に排水するもので、能力としては国内最大級の施設になります。その後、併設する淀川大堰や毛馬水門、閘門も視察を行いました。

その次は、寝屋川流域の浸水被害を軽減するための南部地下河川の若江立坑（東大阪市）の視察をしました。寝屋川の地下河川は、完成して初めて雨水を流す施設となりますが、早期に治水効果を発揮させるため、一連区間が完成した段階で、雨水を一時的に貯留しており、南部地下河川全体で63万m<sup>3</sup>を貯留することが可能となり



若江立坑（南部地下河川）

ました。北部地下河川含めると76万m<sup>3</sup>の貯留量が可能となります（平成23年6月15日現在）。



花園多目的遊水地

次に、ラグーマンの檜舞台である近鉄花園ラグビー場に隣接する花園多目的遊水地を視察しました。遊水地は、通常、野球場やグラウンド、公園等の施設となっていますが、洪水時には恩智川の遊水地となって洪水調節を行う施設となっています。

最後は、大阪「ミナミ」の観光名所ともなっている道頓堀川の水辺整備（とんぼりリバーウォーク）を視察しました。両岸に親水性豊かな遊歩道を設け、休憩施設や広場、船着場なども整備され、潤いを感じながらまちを楽しむことのできる空間が整備されていました。ここでは、「都市及び地域の再生等のために利用する施設に係る河川敷地占用許可準則の特例措置について（平成16年3月23日）」により、一定条件のもとで河川敷地でのイベントや物販行為が認められるようになり、にぎわい創出のためのさまざまなイベント等が行われているとのことでした。



道頓堀川

### 4. おわりに

会議では、他都県市での「特定都市河川」に関する情報収集ができ、今後の事業進捗に大変参考になりました。今後とも情報交換を密にし、浸水被害の軽減に努めて参りたいと思います。

# 平成 25 年度の災害対策等緊急事業推進費について

近畿地方整備局 河川部 地域河川課 中村 大輔

## 1. 災害対策等緊急事業推進費

災害対策等緊急事業推進費（以下、推進費）は、“さらさ”83号でも紹介しましたが、災害が発生した場合は年度途中であっても迅速な対応が出来る予算制度です。

今年度は、7月13日に京都府南部を中心に発生した豪雨により、淀川水系古川（京都府）で、更には9月15日から16日にかけて近畿地方を襲った台風18号の豪雨により、北川水系野木川（福井県）、淀川水系桂川（京都府）で、既に予算配分が各府県に行われ、次年度の予算措置を待たずして事業が実施可能な状態となっています。

## 2. 制度の特徴

推進費の制度の特徴は、“さらさ”で既に紹介済みですが、その一つに災害復旧事業による原形復旧にあわせて、施設の防災機能の強化・向上を図ることが可能となっています。今回の北川水系野木川では、これに則して災害復旧事業とは別に推進費が配分されています。

また、公共土木施設自体の被害が無い場合でも防災機能の強化・向上を図ることが可能っており、淀川水系の古川や桂川では、護岸等の損傷はありませんでしたが、推進費が配分されています。

さらに、必要に応じて対策工事に係る用地費及補償費も対象となることが可能で、北川水系野木川では、必要な用地を確保するための用地費及補償費が配分されています。

推進費は、4月から10月上旬まで随時要求することが可能で、出水期の災害に対して、迅速な対応が可能となっています。

配分は原則年3回行われ、1回目は近畿の河川事業等では該当がありませんでしたが、2回目の10月11日に京都府、3回目の11月29日に福井県と京都府に配分決定が行われました。なお、推進費は年度内予算執行が基本ですが、明許繰越も可能となっています。

## 3. 平成 25 年度の推進費の概要

今年度、推進費が配分された3河川の概要は以下のとおりですが、堰堤改良や砂防事業なども対象事業となっています。

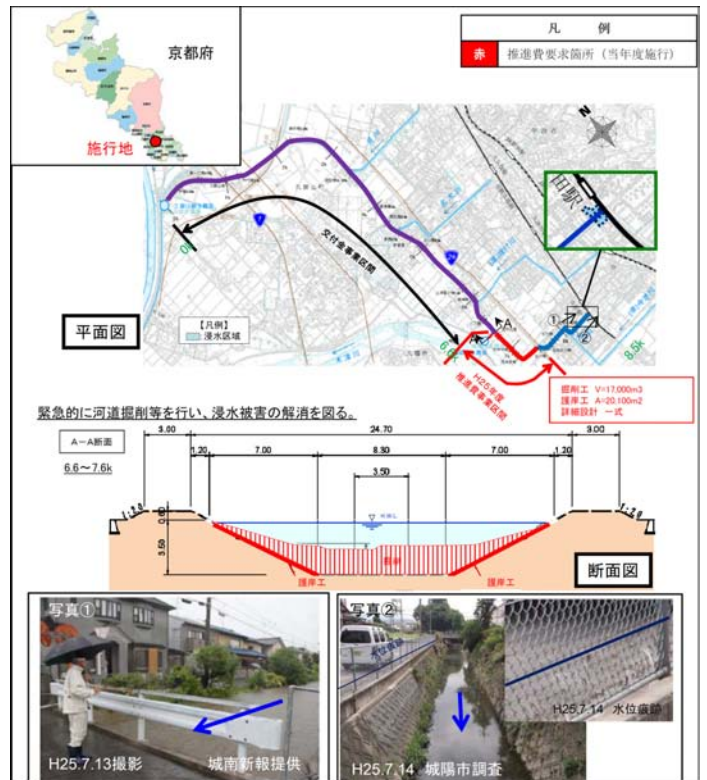
また、今年度の3河川はいずれも豪雨（採択要件：24時間雨量が80mm以上、又は1時間雨量が20mm以上）によるものでしたが、強風（採択要件：最大風速が15m/秒以上）や豪雪、高潮、地震、津波、地すべり、山崩れ、崖崩れなど、異常な自然現象により発生した災害で、被害の程度が比較的軽微と認められないものも対象となります。

更には、前年度に発生した災害も対象となる場合があります。

今後、要求等に際して不明点などがありましたら、地域河川課までお問い合わせ願いたいと思います。

### (1) 淀川水系古川（京都府）

平成25年7月13日、京都府城陽市の寺田雨量観測所では、時間雨量46mm/h、総連続雨量（3時間）



85mm を観測し、城陽市寺田地内の近鉄京都線より下流の淀川水系古川では、河道からの溢水により、床下浸水 7 戸を含む約 0.1ha の浸水被害が発生しました。

このため、推進費を活用し、緊急的に河道掘削及び護岸工の整備を行うことにより流下能力を向上し、来年度の出水期までに再度災害防止を図るとともに住民の安全・安心を確保することとなっています。

事業費：290 百万円（国費 145 百万円）

配分決定日：平成 25 年 10 月 11 日

### (2) 北川水系野木川（福井県）

平成 25 年 9 月 15 日から 16 日にかけて、台風 18 号による記録的な豪雨に見舞われた福井県の嶺南地方では、北川水系遠敷観測所で時間雨量 38.5mm/h、日雨量 384mm/日を観測し、若狭町下野木<sup>しものぎ</sup>では、床上浸水 3 戸、床下浸水 3 戸、事業所 3 箇所を含む約 110ha の浸水被害が発生しました。また、小浜市<sup>たらのしょう</sup>太良庄では、集落に通じる道路が水没し車両の通行が不可能となり、79 戸（285 人）が約 27 時間に渡って孤立するという事態が発生しました。

このため、推進費を活用し、緊急的に築堤及び護岸を整備することにより流下能力を向上し、来年度の出水期までに再度災害防止を図るとともに住民の



安全・安心を確保することとなっています。

事業費：150 百万円（国費 75 百万円）

配分決定日：平成 25 年 11 月 29 日

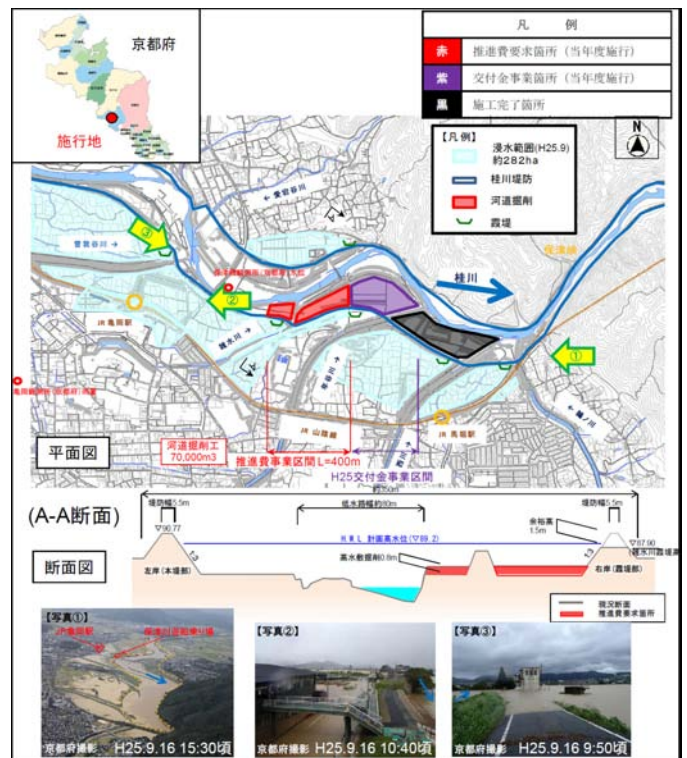
### (3) 淀川水系桂川（京都府）

平成 25 年 9 月 15 日から 16 日、京都府亀岡市では台風 18 号による豪雨に見舞われ、淀川水系桂川では亀岡雨量観測所で時間雨量 34mm/h、日雨量 261mm/日を観測し、亀岡市内では霞堤から広がった洪水等によって、床下浸水 97 戸を含む約 280ha の浸水被害が発生しました。

このため、推進費を活用し、緊急的に河道掘削を行うことにより、流下能力を向上し、再度災害防止を図り住民の安全・安心を確保することとなっています。

事業費：100 百万円（国費 50 百万円）

配分決定日：平成 25 年 11 月 2 日



# 大阪湾再生に向けた取り組みについて～多様な主体との連携・協働～ 近畿地方整備局 企画部 広域計画課 黒川 文宏

## 1. 大阪湾の概要

大阪湾は、明石海峡～紀淡海峡の陸地と淡路島に囲まれた閉鎖性海域（1,450km<sup>2</sup>）です。大阪湾に流入する河川の流域には約1,700万人の人々が生活を営んでおり、その生活排水等が大阪湾へ流入しています。

大阪湾には、昭和初期まで浅場や自然海岸が広く分布していました。しかし高度成長期には、埋め立てによる土地利用が進み（図-1）、物流・生産機能の強化が図られ、日本の高度成長を大きく支えた反面、浅場・干潟等の大幅な減少、ゴミの増加、水質汚濁の進行など、大阪湾の環境は悪化しました。



図-1 大阪湾における埋立の変遷

## 2. 大阪湾再生行動計画について

このような大阪湾の環境の悪化に対し、都市環境インフラとしての「海の再生」が都市再生本部で決定（第三次決定）されたこと（平成13年）を受け、平成15年、行政を中心とした「大阪湾再生推進会議」を設置し、翌年（平成16年）には「大阪湾再生行動計画」（以下「再生行動計画」）を策定し、その再生に向けた取り組みを開始しました。

再生行動計画の推進にあたり、その目標とし、「森・川・海のネットワークを通じて、美しく親しみやすい豊かな『魚庭（なにわ）の海』（図-2）を回復し、京阪神都市圏として市民が誇りうる『大

阪湾』を創出する。」を掲げ、広域的に再生に向けた取り組みを進めています。



図-2 「魚庭の海」のイメージ

陸域では、河川浄化事業、下水道事業、森林整備等、海域では、藻場・干潟等の創出等、水質調査等による環境監視の取り組みを進めています。

再生行動計画の計画期間は10年で、本年度が最終年度となります。

## 3. 大阪湾の水環境の現状と課題

現在の大阪湾の水環境は、生き物の棲みやすさの指標（D0）及び水のきれいさの指標（表層COD、全窒素、全リン）で見ると、広域的な再生の取り組みの成果もあり、改善傾向ではあるものの（図-3）、依然として、夏季（6～8月）において、湾奥部で水質が比較的汚濁している状況です。

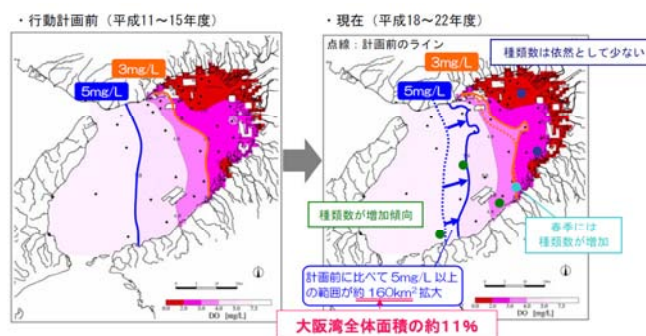


図-3 大阪湾における底層D0(年間最低値5カ年平均) また、自然海浜、干潟が特に少ないことから『魚庭（なにわ）の海』を目指し、今後も継続した取り組みが必要です。

そこで、市民など多様な主体との連携を強化・拡充し、継続した「大阪湾再生」に向けた取り組みへ繋げる必要があります。

#### 4. 多様な主体との連携による大阪湾再生の取り組み

行政機関を中心とした取り組み（河川浄化事業等）を実施するとともに、森・川・海の各地域で市民など多様な主体との連携による取り組みを推進しています。

平成 17 年 11 月には、大阪湾に関心のある個人や団体からなるネットワーク「大阪湾見守りネット」が設立され、「ほっといたらあかんやん！大阪湾フォーラム」の開催などの活動を行っています。（写真-1）



写真-1 「ほっといたらあかんやん！大阪湾フォーラム」  
（神戸市立須磨海浜水族園）

また、淀川流域の「淀川“わんど”クリーン作戦」、大和川流域の「大和川クリーンキャンペーン」をはじめとする各流域での河川清掃、環境学習会等、様々な取り組みが行われています。（写真-2）



写真-2 アクリルタワシ製作講座（奈良県）

また、現在の再生行動計画が 10 年目を迎える平成 24～平成 25 年度にかけては、10 年間の活動の総括として、「大阪湾 Years2012-2013」と題し、NPO、学識者、研究機関、水族館・博物館と連携・協働し、「連携企画展」など様々な趣向を凝らしたイベ

ントを開催しています。

#### 5. 大阪湾 Years2012-2013 ファイナルイベント「どないすんねん！大阪湾～つながる・つなげる再生の輪～」の開催について

大阪湾 Years2012-2013 ファイナルイベント「どないすんねん！大阪湾～つながる・つなげる再生の輪～」は、市民・NPO、学識者、企業や行政機関など多様な主体が連携・協働し、共通テーマ「つながる・つなげる再生の輪」に基づき、「大阪湾再生」の 10 年間の取り組み総括を行うと共に、そのあるべき姿（将来像）について議論し、発信するイベントです。（図-4）

「大阪湾 Years2012-2013」の枠組を活用し、「ほっといたらあかんやん！大阪湾フォーラム」をはじめ、各主体が開催するシンポジウム、フォーラム等をパッケージ化し、2014 年 3 月 1 日（土）から 2014 年 3 月 3 日（月）の 3 日間連続で開催します。

本イベントの開催により、多様な主体との連携強化・拡充を図り、継続した「大阪湾再生」に向けた取り組みに繋げていきます。



図-4 大阪湾 Years2012-2013 ファイナルイベント  
チラシ

# 多自然川づくりアドバイザー制度について

近畿地方整備局 河川部 地域河川課 辻田 英幸

## 1. 多自然川づくりアドバイザー制度について

平成2年から始まった「多自然型川づくり」は、「多自然川づくり」と名称を変え、現在では、一級河川、二級河川及び準用河川など、全ての河川の川づくりの基本となっており、調査、計画、設計、施工、維持管理等の河川管理のすべての行為が、その対象となっています。これは、激特事業や災害助成事業等などで、一連区間を大規模かつ短期間で事業を実施する場合も、例外とはなっていません。

しかし、これらの事業では被災後の迅速な対応が求められることから、調査・検討の期間が限られる等の制約があり、多自然川づくりに対する必要な知識や知見が求められるところです。

このため、こうした要請に対して、広範な知識を有する大学や国土技術政策総合研究所、独立行政法人土木研究所等に所属する専門家を派遣して助言を行う「激特事業及び災害助成事業等における多自然川づくりアドバイザー制度」が運用されています。

## 2. 台風18号の災害復旧に対する派遣要請

昨年9月の台風18号では、近畿地方の各地に大きな爪痕を残しました。

運用開始後はじめて大雨特別警報が発表された滋賀県でも、死者1名、重軽傷者9名、家屋全壊8棟、半壊265棟、一部損壊439棟、床上浸水166棟、床下浸水495棟と、近年希にみる災害が発生しました。

琵琶湖の西岸に流入する淀川水系鴨川でも、堤防が約150mにわたって決壊し、97棟の床上浸水被害が発生しました。

そのため、災害復旧助成事業を実施するにあたって、滋賀県からアドバイザーの派遣要請があり、国土技術政策総合研究所の

河川研究室の研究官2名が現地に派遣され、具体的な復旧計画についての助言が行われました。



## 3. 被災現場での助言

滋賀県からの報告では、11月27日に、滋賀県の生物環境アドバイザーも加わって、直接被災現場で助言が行われたとのこと。その際、「現況の河道線形を尊重した河道計画とすること。計画に際して、「多自然川づくりポイントブックⅢ」を参考とすること」「河道断面を確保しても、出水時に土砂で河床があがり、流下能力が足りなくなる可能性がある。その堆積する分を見込んで河床を低くことや、縦断勾配が緩くなる下流の方では、土砂が堆積するので、河積に余裕を持たせる必要がある」など、有益助言が受けられたとのことでした。



# “おらがまち”の水辺自慢

近畿地方整備局 河川部 地域河川課 今須 重明

## 1. 全国の水辺自慢写真

水辺には様々な魅力や価値があります。「豊かな自然」「きれいな空間」といった価値だけでなく、多くの人々が集い楽しめる空間として、風格のある地域のシンボルとして、また観光名所として永く人々に記憶されるといった魅力もあります。

しかし一方で、かつては、人間の営みの中心には常に川や水辺がありましたが、利便性や効率性を優先させてきた結果、こうした水辺の価値や魅力が忘れられ、“地域の顔”としての美しい水辺を喪失しつつあります。

国土交通省水管理・国土保全局では、観光庁とも協力し、まちにある川や水辺の様々な魅力や価値を再認識するとともに、他の地域の水辺の風景に接することにより、今後の水辺づくりを考えるきっかけとなることを期待して、地域のシンボルとなっている「美しい水辺とまち」をテーマに、“おらがまち”から全国に向けて発信する風景写真の募集を行っています。

## 2. 水辺のギャラリー

募集は今年の9月より始まり、近畿地方整備局からも募集のご案内をさせて頂いたところですが、現在（平成26年2月7日時点）、405点（近畿の2府6県では58点）の応募を頂いています。

応募頂いた写真は、ホームページで「全国の水辺自慢写真集」として公表されています。身近な近畿の水辺だけではなく、北海道から沖縄まで、四季折々に姿を変える全国のお国自慢の水辺風景を見ることが出来ます。是非、のぞいて頂き今後の川づくりの参考にして頂ければと思います。

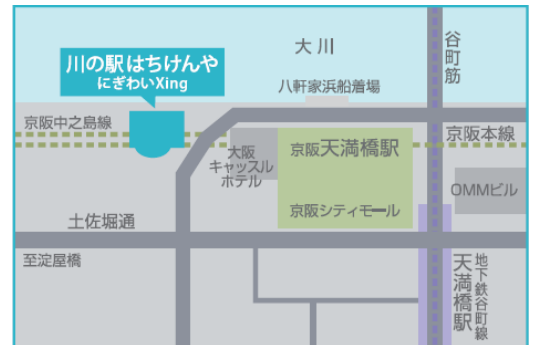
<http://www.mlit.go.jp/river/kankyo/main/kankyou/machizukuri/utsukushiimizube/index.html>



水管理・国土保全局廊下での展示

また、応募頂いた写真は、国土交通省水管理・国土保全局の廊下にも展示され、さながらフォトミュージアムとなって、訪れる人を和ませていました。ここを訪れる時は、何故かいつも憂鬱になる私でしたが、先日、訪れた際は、展示された写真に不思議と心が宥められ、水辺がもつ魅力と価値を改めて実感した次第です。

なお、近畿地方整備局河川部（大阪合同庁舎1号館7F大阪城側エレベーターホール）や「川の駅はちけんや」（2月26日～3月20日予定）でも、近畿各地の“おらがまち”の水辺自慢写真を展示致します。機会がありましたら、是非、足をお運び下さい。



# 大滝ダム ～完成したダム・始まった伝わるダム広報～

近畿地方整備局 紀の川ダム統管理事務所管理課 長坂 健

## 1. 完成を迎えた大滝ダム

大滝ダムは、伊勢湾台風（昭和34年9月）の紀の川沿川における甚大な被害を契機に計画されたダムです。その目的は、水害を軽減するための洪水調節、水道及び工業用水の供給、河川の本来持っている機能維持、クリーンエネルギーである水力発電を目的とした多目的ダムです。



平成25年3月23日には、多数の来賓やダム建設に協力いただいた地域のみなさま、事業関係者もご出席いただき、約600名のご臨席のもと竣工式を行い、3月31日に完成しました。



写真1 昭和36年9月吉野郡吉野町上市地区

## 2. 『ダム建設』から『ダム管理』へ

大滝ダムでは、「ダム建設」について理解していただくことを目的として様々な施設を設置しました。その中心となる施設として、パピリオン「学べる建設ステーション」これを中心にタワーブリッジ、稲妻階段、体感道路を設置しました。パピリオンでは、伊勢湾台風襲来において観測された1時間あたり600mmの豪雨を体験できる豪雨体験室をはじめ建設工事について学べる教材を展示してきました。



写真2 平成24年3月30日 試験放水

平成25年からダム管理に移行するにあたり、これらの『ダム建設を理解していただく広報』から『ダムの管理、役割』を理解していただく広報をしています。



写真3 平成25年3月23日 大滝ダム竣工式

## 3. ダム広報転換の具体的な取り組み

ダムに親しみを持っていただくために施設に名前をつける取り組みを行いました。特にダム湖については、ダム湖名を募集し、有識者・関係者8名で構成した「大滝ダムダム湖名選定委員会」において審査しました。その結果、地域を特定しやすい「大滝」の文字と、地域の人びととの永く変わらぬ源流吉野川への畏敬の念から「龍神」の文字が用いられた『おおたき龍神湖』に決まりました。



写真4 ダム堤体からおおたき龍神湖を望む

そのほかにも、一般の方々がいかに解りやすく、見た目と場所でもわかりやすいかなど検討し、「ダムの空みち」「ダムの中みち」「ダイナミック広場」「クロベノエキ」とダム見せ場のポイントに名前をつけていきました。

建設ステーションについても、『学べる防災ステーション』と名称を変更し、ダムの役割や豪雨体験を中心に校外学習の機会を提供することとしました。

ダムを見ていただく方が自由に来て、ダムの大きさなど感じていただく取り組みとして、ダムの中みちを自由見学できることとし積極的にダムに接して親しみを持っていただくようにしました。



写真5 湖名碑





#### 4. ダム案内の実施

平成25年度は一般の方が参加いただけたダム見学会を4回（合計5日）実施しています。

- ① 平成25年7月28日（森と湖に親しむ旬間イベント）
- ② 平成25年9月8日（源流祭り：川上村と合同）
- ③ 平成25年11月23、24日（なんゆう祭：奈良県と合同）
- ④ 平成25年12月9日（森林と水と共存してきた吉野地域文化を学ぶ旅）

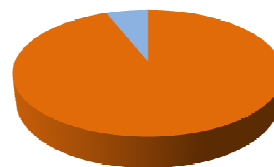
なんゆう祭りに実施したアンケートにおいて、94%（回答数587件）の方々「見学に満足」と回答をいただきました。



写真6 なんゆう祭

#### ◇ダム見学者の声

○見学の満足度  
■満足（94%）



#### 5. 今後の取り組みに向けた課題

ダム案内については、いただいている「満足度」を上げる事や「満足している理由」を考察し、広報向上への工夫を進める必要があります。また、案内に手間取る事、説明に困る事があるなど、これら要点を洗い出しの課題を克服してし、より伝わる広報活動が必要です。

#### 6. 終わりに

一年間を通じて、ダム案内を実施した経験について僕の感じていることについて、少し触れておきます。今、ダム案内で何を伝えられるのか、何が伝わるのか。と考えた時「真剣に仕事に取り組んでいる。」ことだと感じています。

また、伝わるにはどうしたらいいかといえば、案内する側、案内される側とが一体感を持てる事かどうかに懸かってくると思います。一体感を持てるように取り組むことで「伝わった」「伝わっていない」事がわかるようになりました。伝わっていない部分について、次の機会に直すということで、徐々に伝わるようになっていと感じています。また、見学に来ていただいた方は、僕を「ダムのプロ」として見えています。広報は一般に専門用語は使わない方が良いでしょう。と言われていました。プロとして伝わる専門用語（比喩）を持っておく必要だと考えています。

最後に大滝ダムのダムカードについて広報します。「ちいさなパンフレット」「これを使って大滝ダムが説明できる」をコンセプトに、大滝ダムの特徴を「短い言葉で伝える」事を意識し、作成しました。特に、僕が好きなフレーズを紹介します。大滝ダムのこだわり技術として、計画水位維持放流設備（カスケード：フランス語で小さな滝の意味）があります。



写真7 カスケード放流

【カスケードの7つの小窓からこぼれ落ちる洪水は美しい滝に変わります】  
みなさまも大滝ダムまで足を運んで素敵な虹が架かったダムカードを手にとり下さい。

# イベント情報

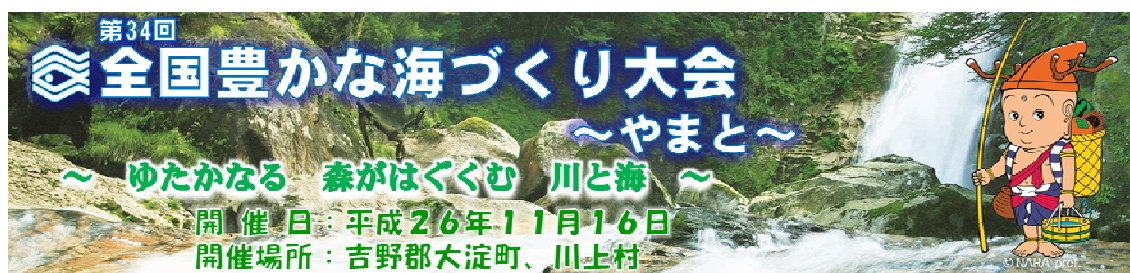
平成26年4月～6月

エリア	イベント名	河川名	開催日	場所	問い合わせ先	概要・見どころ	交通機関
京都府	第29回大野ダムさくら祭り	由良川	4月5日(土)～13日(日) 予定	南丹市美山町榎原大野ダム公園	美山町大野振興会 0771-75-9110	大野ダム公園には約1000本の桜が植えられており毎年春にはさくら祭りが開催されています。色々なイベントや地元の特産品等も販売されています	最寄り駅JR和知駅 路線バスで15分
	鴨川探検！再発見！第35弾	鴨川	5月(予定) 10時～12時(予定)	鴨川周辺 (京都府京都市)	京都府建設交通部河川課 TEL: 075-414-5287 MAIL: kasen@pref.kyoto.lg.jp URL: http://www.pref.kyoto.jp/kamogawa/1170046924991.html	歴史都市「京都の顔」として、多くの人々に親しまれている鴨川の魅力を、自然観察会や歴史文化の学習会などを通じて改めて発見し、川への理解を深め、河川愛護や自然環境保全への関心と主体的な取組の輪を広めてもらうことを目的としています。小学生を対象に年4回程度開催しています。	最寄り駅 地下鉄北山駅下車 徒歩10分
	鯉のぼりイベント	桂川	5月(予定) 9時～12時(予定)	亀岡市篠町 山本浜 (トロッコ亀岡駅北側)	亀岡市篠町自治会 篠町つくり推進会	子どもの成長を願って、55本、約170匹の鯉のぼりを桂川に掲揚しています。クイズラリーや餅つき、ミニSLの乗車会のイベントを半日、開催しています。 また、保津川・山本浜の歴史に触れるとともにパネル展示により保津川かわまちづくり計画に関しての理解を深めてもらうことを目的としています。	最寄り駅 JR嵯峨野線 馬堀駅より 徒歩5分
大阪府	利き水会	—	4月～6月の土曜日、日曜日及び祝日(未定)	各市町村のイベント実施場所以て開催(未定)	大阪広域水道企業団企画課 TEL 06-6944-6864 URL http://www.wsaosaka.jp/event-pr/kikimizukai/	水道水がおいしく安全であることを実感していただくため、市町村が実施するイベントなどで水道水とミネラルウォーターの利き水を行います。参加者には、ボトル水をプレゼントします。  (※開催日時、場所、イベントの詳細な情報は、利き水会開催日の1～3週間前に、大阪広域水道企業団のホームページに掲載します。(問い合わせ先URL参照))	—
兵庫県	第10回武庫川桜回廊ウォーク	武庫川	4月6日(日) 8時半～17時	JR藍本駅～青野ダム～三田総合文化センター	三田市商工観光振興課 079-559-5087	約2000人の参加者がJR藍本駅から青野ダム記念館を通り、三田市総合文化センターまでの桜の並木道を歩くイベント	スタート受付(JR藍本駅前)
	第4回武庫川さくらと灯りのプロムナード	武庫川	4月4日～14日 ライトアップ4月4日～13日18時から21時	三田市総合文化センター 「郷の音ホール」 付近の武庫川右岸	三田市総合案内所(キッピーナビ) 079-563-0039	三田市武庫川さくら回廊は兵庫県下でも有数の桜の名所 桜のライトアップやボンボリの点灯 屋台 三田ゆかりのアーティストによるライブ等	JR三田駅下車 徒歩約15分
和歌山県	第5回全日本ヤッホー選手権	日高川	4月下旬	グリーンパーク椿山 (和歌山県日高郡日高川町)	日高川町観光協会 ☎0738-22-2041	日高川町の椿山ダム付近で“とても楽しいやまびこができる場所”が発見され、瞬く間に「ヤッホーポイント」として注目を集めました。毎日いろいろな“やまびこ”が聞こえてくるその場所で、「第5回ヤッホー選手権大会！」を開催いたします。普段大きな声で言えない事や願い事など何でもOK！審査員が山彦の聞こえ具合、セリフの内容等を審査し順位を決め、上位の方には表彰及び賞品もあります。	JR紀勢本線御坊駅より バスで約70分(大阪方面から) 阪和自動車道有田IC下車、 国道424号線を約45分(白浜方面から) 阪和自動車道御坊IC下車 県道26号・国道424号線を約50分
	古座川桜祭り	古座川	4月6日(日)	古座川町佐田 (七川ダム湖畔)	古座川町役場 産業振興課 ☎0735-72-0180	「佐田の桜まつり」とも呼ばれる約3000本のソメイヨシノが、七川ダム湖畔周囲約5kmに渡って咲き誇ります。また「日本さくら名所100選」にも選ばれた名所で、湖畔を散策しながらの花見は人気で、4月6日はミニコンサートや餅まきが予定されています。 日没後はぼんぼり提灯で夜桜も楽しめます。(3月下旬～4月上旬)	国道42号より車で約30分 (当日は混雑が予想されます)

## 編集後記

「さらさ」2014春号の編集を務めさせていただきました。投稿していただいた方々におかれましては、お忙しい中、ご協力いただきありがとうございます。紙面を借りてお礼を申し上げます。

来年度、奈良県では「第34回全国豊かな海づくり大会～やまと～」が開催されます。大会テーマは「ゆたかなる 森がはぐくむ 川と海」。海のない本県ですが、山や川に光を当て、健全な水循環の大切さを心に刻み、山、川、海の自然の恵みを未来に引き継ぐ契機にしようとするものです。また、県南部地域を中心に甚大な被害をもたらした紀伊半島大水害の発生から2年以上経過しましたが、被災地域では、復旧・復興に向けての取組が、なお、日々進められています。大会開催によって、県南部地域の振興を図り、紀伊半島大水害からの復旧・復興にもつなげようとするものです。地元市町村、関係団体等との協働・連携により、大会を通して「奈良の魅力」を全国に発信するとともに、心のこもった「お・も・て・な・し」のできる大会にしていきたいと考えています。



編集担当 奈良県 県土マネジメント部 河川課 松本 邦治

---

2014年3月 No.85 春号

編集・発行： 三重県、福井県、滋賀県、京都府、京都市、大阪府、大阪市、堺市、兵庫県、神戸市、奈良県、和歌山県、  
国土交通省近畿地方整備局

問い合わせ： 国土交通省 近畿地方整備局 河川部 地域河川課  
大阪市中央区大手前1丁目 5-44 TEL(06)6942-1141